R7　蹉跎東小学校小学校　不登校・不登校傾向対応マニュアル

児童	学級担任・学年	学校

心の小さなSOS

□遅刻、早退が多い
□保健室によく行く
□月曜日の欠席が多い
□表情が暗い
□一人で過ごしている
など

・宿題忘れ
・勉強がわからない
・本人の問題
・友人関係トラブル
・教師に対する不信感
・親子関係・家庭環境

特に2日以上連続欠席の場合

欠席理由が「体調不良」「腹痛・頭痛」「しんどい」などの場合は、そのままで受け取らず、他に要因があると考えることも必要。

欠席

2日連続欠席

3日連続欠席

1週間以上連続欠席または月6日以上

気になる児童

現　状　確　認

家庭連絡

□欠席後に登校しやすい環境づくり
※連絡を受けることで、安心感を持てる児童もいる。

訪問

□保護者連絡し、本人と会える環境を作る
□本人の状況確認
□生活実態を知り、今後の支援に役立てる
□本人や保護者の困りごとを聞く
※訪問を受けることで、安心感を持てる児童もいる。

状　況　把　握

観察時期

□現状を学年で共有
□不登校担当や養護教諭等に共有
□個人で抱え込まない様に、学年や不登校担当と一緒に情報収集や個に応じた支援を実施
□生徒情報を獲得できるように。
→本人からの情報（観察・面談）
→友達からの情報
→教職員からの情報（旧担、養護教諭など）
□保護者との連携を強化
□児童の様子を記録する。
→出来る限りの情報（5W1H）を記録することが、後のケース会議・関係機関連携・通告にとって重要

対応時期

□不登校担当に報告
□学年を中心に検討、対応の方針を考え、決定する。
□保護者との連携や面談を実施し、連絡頻度など共有する。
□決定方針に従い、支援・対応する

□職員会議、職夕等で情報を共有する（必要がある場合）
□ケース会議の検討・判断
□SC・心の相談員・府SC・SSWとの共有
□不登校対策委員会を実施
→生徒指導主担、当該学年担任、養護教諭（管理職、学年 主任、支援学級担任、SC,SSW）

ケース会議

□関係教員、関係機関
→状況が見えにくい、動かない状況では、専門的（SC/SSW）などの意見を聞き、ケースの方針を明確にする。（短期的、長期的目標）
□目標に対しての状況を、常に確認する。

関係機関

□児童育成支援拠点事業（子ども食堂、就学金、奨励費など）
□まるっとこどもセンター
□教育支援センター「ルポ」　など

モニタリング

通告
家庭での養育が難しい場合